

パネル・ディベートを提案する

ディベートから2つの立場を外す

ディベートの魅力の一つは、相対する2つの立場に分かれることです。この二値的考え方は、議論をわかりやすくし、それぞれのチームの闘争心を呼び起こします。しかし、話し合いは多値的考え方を前提としています。したがって、ディベートでは、現実問題の解決に際しての力とはなりにくい側面があります。

思い切って、この相対する2つの立場の枠を外すとどうなるでしょうか。抽象化された是か非かという2つの立場にこだわらず、もっと多くの3～5の立場を設けることで、設定された立場はより具体的、現実的になります。議論は現実根ざしたものとなり、その結果、生徒にとっては取り組みやすくなります。

また、副次的な産物ではありますが、1回の討議に参加する人数も多くなり、全員を参加させるのに2時間程度で終わることができます。これにより、参加者間の意識差もかなり埋めることができます。

ディベートを超える新しい討論形態

ディベートに基盤を置きつつパネル・ディスカッションの特長を取り入れたパネル・ディベートというものがあります。これならば、2つの立場にこだわらずに、多面的に問題を検討し、フロアからの参加も得て活発に討論を展開することができます。パネル・ディベートこそ、ディベートを超える新しい討論形態と言えるかもしれません。

パネル・ディスカッションの形式を取り入れる

パネル・ディスカッションは、異なる立場の代表数名が、各自の専門的知識や情報、意見を述べ合い、聴衆も交えて討論する方法です。このうち、異なる立場の代表数名が聴衆も交えて討論することをディベートに持ち込み、それを改良したのが、パネル・ディベートです。

ロール・プレイングでその人になりきる

パネル・ディベートでは、立場が3～5と増えるのに伴い、具体的な立場（人物・役割）を与えることになります。それぞれの立場からロール・プレイングをさせることで、討論が格段に具体的・現実的となります。現実存在する人を思い浮かべて、それに一体化するようになります。

パネル・ディベートの進め方と特長

パネル・ディベートは、ディベートを基盤として、パネル・ディスカッションの方法とロール・プレイングの要素を一部取り入れたものです。進め方は、次のようになります。

- (1) 一つのテーマについて、3～5の立場（チーム）に分かれる。
- (2) チームのメンバーはチーム内協議を行い、与えられたテーマについて意見を統一しておく。
- (3) (2)に基づいて、代表者1名または2名が立論と代表者討議を行う。
- (4) 他のメンバーは、全体討議の場で討論に参加する。
- (5) 審判は、どのチームの討論がすぐれていたかを判定する。

また、パネル・ディベートは、次の特長をもっています。

- ① いくつもの立場を設定し、様々な立場・視点から問題を捉えて論争する。
- ② ロール・プレイング的要素を取り入れて立場を設定するため、中学生でも論の組み立てや討論がしやすい。
- ③ 全体討議の時間をもち、そのときにはフロアも討論に参加する。

パネル・ディベートで育てる力

パネル・ディベートで育てる力は、基本的にディベートと変わるところはありません。論理的思考力や討論する力などを育て伸ばすことは、パネル・ディベートでも同様に可能です。加えて、パネル・ディベートの最大の魅力は、現実問題に対応する力を育てることです。